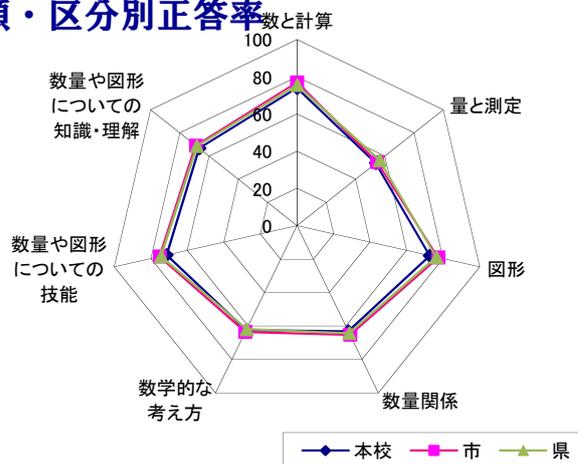


# 宇都宮市立宝木小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.0	77.0	75.6
	量と測定	53.9	54.8	56.5
	図形	72.7	77.4	76.3
	数量関係	63.1	65.3	64.3
観点	数学的な考え方	62.5	63.5	61.9
	数量や図形についての技能	71.4	75.2	74.5
	数量や図形についての知識・理解	66.7	69.1	68.4



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○わり算の文章問題の場面に合った図や式を選ぶ問題では、県平均を1.7ポイント上回っている。</p> <p>●小数のたし算の問題では、県平均を3.7ポイント、小数×整数の問題で4.3ポイント、小数÷整数の問題で10.2ポイント下回っている。</p>	<p>・「かける・たす・ひく・おろす」などの基本作業でミスをする児童には、基本問題を繰り返し練習させていく。</p> <p>・小数点の扱いを復習する。たし算とひき算では、小数点をそろえること、かけ算とわり算では、小数点の移動の仕方を意識して練習問題に取り組みさせていく。</p>
量と測定	<p>○面積の<math>\text{cm}^2</math>と<math>\text{m}^2</math>の単位の関係の正答率は43.6%で、県平均より0.8ポイント上回っている。</p> <p>●面積を求める問題の正答率は63.9%で、県平均よりも5.5ポイント下回っている。</p> <p>●身近なものの面積や角度の見当をつける問題については、県平均をそれぞれ1.3、4.1ポイント下回っている。</p>	<p>・面積が文章で書かれていたために、読むことを避けている児童がいると考えられる。文章からイメージをもてるように、自分で図を描く指導をしていく。</p> <p>・見当がつかないのは、量感が育っていないからと考える。身の回りの中で長さや大きさの見当ができるように指導していく。</p>
図形	<p>○立方体の見取り図から平行な関係にある辺を選ぶ問題の正答率は81.2%で、県平均を0.8ポイント上回っている。</p> <p>●四角形の対角線の性質を選ぶ問題の正答率は55.6%で、県平均を4.3ポイント下回っている。</p> <p>●ひし形の作図問題の正答率は75.9%で、県平均を2.7ポイント下回っている。</p> <p>●直方体の展開図を選ぶ問題の正答率は78.2%で、県平均を8.1ポイント下回っている。</p>	<p>・図形の性質を理解していないと作図もできない。もう一度図形の性質を復習する必要がある。理解した上で、作図に取り組みさせていきたい。</p> <p>・図形の展開図の面の数や位置を具体物を使って考えさせていくようにする。</p>
数量関係	<p>○棒と折れ線グラフの読み取る問題は、県平均を6.2ポイント上回っている。</p> <p>○二次元表での欄の意味を説明する問題は、県平均を3.8ポイント上回っている。</p> <p>●計算のきまりにおいて、式を立てることや計算順序を理解する問題は、県平均をそれぞれ6.3ポイント、12.5ポイント下回っている。</p> <p>●変わり方調べにおいて、表に当てはまる数を入れる問題や、数量関係を式に表す問題は、県平均をそれぞれ3.2ポイント2.6ポイント下回っている。</p>	<p>・計算のきまりは計算技能にも関係するので、しっかり復習し、計算技能の定着を図っていく。</p> <p>・立式するには、文章の場面理解が必要なので、イメージを理解させる指導を工夫していく。</p> <p>変わり方では、1増えともう一方がどのような変わり方をするのかを立式できるまで繰り返し復習し、定着を図る。</p>